

公益法人 第9期

2019（平成31・令和1）年度

# 事業報告書

2019年4月1日から

2020年3月31日まで

公益財団法人

ベルマーク教育助成財団

### 〈総説〉

ベルマークには公益財団法人として認められた事業が2つあります。

公益事業1は、参加団体（学校等）がベルマークを集め、自校の設備を充実してもらうことを財団がお手伝いします。ベルマーク運動の本体ともいえ、参加団体が活発にマークを集め、スポンサーとなる協賛会社の参加が増えることが運動を活性化します。

公益事業2は、事業1にともなって財団にいただく寄付を原資にして、生徒数が少なくマーク集めが困難なへき地校、災害被災校、特別支援学校等に財団が教材を寄付します。

ベルマーク財団は事業2を実施するために事業1の仕組みとともに、1960年に設立されました。

2つの公益事業と、それを安定して継続するための財団運営にわけ、2019年度に実施した事業を報告します。

### 〔公益事業1〕

〈参加団体＝学校等〉26,670団体

	2020年3月末	2019年3月末	増減
参加団体数	26,670	26,926	△256
幼稚園	4,832	4,925	△93
小学校	14,161	14,268	△107
中学校	6,250	6,304	△54
高等学校	1,158	1,167	△9
大学	96	94	2
公民館	173	168	5

少子化と学校の統廃合によって、微減の傾向が続いていますが、参加団体の過半を占める小学校の参加率は71.7%で前年と同水準ですが、中学校は61.1%と前年の61.4%からやや低下しました。

### 〈協賛会社〉

商品にベルマークをつけ、市場調査費を提供してくれる会社です。

2020年4月1日現在 52社(前年同期比1社減)です。

年度末に清酒「真澄」の宮坂醸造が脱退したためです。

〈協力会社〉

教材販売に伴い寄付をしてくれる会社です。

2020年3月末現在 14社

年度中の増減はありませんでした。

〈集票点数〉

学校等の参加団体が集めたベルマーク点数です。

1点あたり1円がPTA預金に入り、設備購入資金になります。

2019年度 410,275,804点 =約4億1000万円

2018年度 413,425,734点

前年度比 △0.8%

年度半ばの消費税アップ、弱含みの個人消費に加え、参加団体の減少傾向などから厳しい環境下で推移しましたが、早出、残業などの実施により、前年度からは微減に留まりました。

ベルマーク運動が始まった1960年からの累計では、  
28,609,032,751点=約286億円になりました。

〈参加団体が購入した教材費〉

購入資金の10%が協力会社から参加PTAを經由して財団に寄付され、へき地校や災害被災校などの支援という「公益事業2」の原資となります。

2019年度 460,272,975円

2018年度 473,508,890円

前年度比 △2.8%

1960年からの累計は、27,523,059,408円=約275億円になりました。

サッカーボールなどの運動用具は依然人気根強く、楽器や子どもたちの絵を飾る掲示パネル等、品物は多岐にわたります。2019年度は夏の猛暑が影響したのか、冷水器、大型扇風機、運動会用テントなどのお買い物も目立ちました。

### 〈運動拡大のための活動〉

#### ベルマーク運動説明会

年度ごとに替わる PTA 役員に対しマークの集め方や使い方を説明します。  
2019 年 5～6 月に、全国 95 会場で開催しました。4,645 校・団体(前年度比 156 校・団体減)から 12,180 人(同 704 人減)が参加。資料やベルマーク特製の記念品をお渡ししました。  
会場には協賛会社の担当者も宣伝に来られ、試供品の提供などが好評です。  
PTA 活動の在り方に対する風当たりも強まっていますが、運動を支えてくださる保護者のみなさんに直接お目にかかれる貴重な場なので、コスト削減を図りつつ参加者増に努めます。

### 〈刊行物〉

#### ベルマーク活動報告書

財団の 1 年間の活動成果を広く社会に知ってもらうため、見やすく楽しくカラフルな報告書になるよう努めました。協賛・協力会社、寄付をいただいた先、また新たに加入をお誘いする会社等にお渡しし、協力いただいた成果をフィードバックします。毎年更新していく予定です。

#### デジタル版ベルマーク新聞

毎月発行しています。新鮮なニュースを見やすい編集でお届けすることに力を入れました。

#### 財団ホームページ

マーク集めに役立つ情報をはじめ、支援先の子どもたちからの元気なお便り、財団が各地で支援している活動なども楽しく紹介しています。また、協賛・協力会社にとっても魅力的なページとなるよう、企業情報も積極的に取り上げました。YouTube なども活用し、さらなる可能性を探っていきます。

### 〈学校外での集票〉

#### 企業等のマーク集めの拡大

企業や労組、自治体が東北をはじめとする被災校にベルマークを贈る申し出が増えています。愛知県豊橋市、兵庫県三木市、大阪府東大阪市は市を挙げてベルマーク集めに取り組んでいます。とりわけ豊橋市は、同市小中学校 P T A 連絡協議会なども参加、イベントや出版物を通して運動拡大に力を入れてくれています。

#### ベルマーク大使の活用

2015 年 12 月に任命した 7 人加え、2018 年に新たに 6 組 9 人に大使にご就任頂きました。地域での運動の牽引役、熱心な協賛会社の方、発信力のあるタレントさんなど多彩な顔ぶれです。それぞれのお仕事、生活の場で、ベルマークの普及、応援にご尽力いただいています。

## [公益事業2]

財団がへき地校、被災校、養護学校等に援助した物品額等  
2019年度 総額 73,156,861円  
(1960年からの累計 4,914,603,313円=約49億円)

へき地校の設備支援は昨年度同様100校に実施。被災学校支援は、従来の東日本大震災被災校に加え、台風15号、19号の被災校にも行いました。援助先ごとの概要は以下の通りです。

### 〈へき地学校〉

総額 32,244,212円相当  
うち設備 全国100校 29,997,311円 視聴覚・理科機器、体育用品など  
うちソフト13校 2,246,901円 一輪車講習・理科実験

### 〈諸学校〉

総額 14,179,594円相当  
養護学校 20校 視聴覚機材等  
盲学校 17校 卓上型拡大読書器  
聾学校 19校 短焦点プロジェクター  
病院内学級 4学級 タブレット等

### 〈被災学校〉

東日本大震災(岩手・宮城・福島 計139校)  
総額1,200万円相当の学用品やバス代援助等

台風15号・19号被害 全50校  
(千葉19校、福島16校、栃木10校、長野5校)  
総額800万円相当の学用品等

(財団の予算から支出した、東日本大震災分8,743,023円、台風15号・19号分4,617,675円に加え、ボランティアや企業、一般の方々等が集めて財団に寄贈してくれたベルマークを被災校に送ったものの合算です)

このほか、被災地の子どもたちの「学び」を助けるなど、学校では対応しにくい分野でボランティア的に活動する「寺子屋」事業の3団体に計150万円、公害から立ち上がった熊本県水俣市と福島県の中学生たちが共に「復興」を考える「福島・水俣教育交流事業」に50万円を寄付しました。

### 〈開発途上国の学校〉

総額 4,250,000円  
アジア・アフリカなどで活動する9団体を通じ8カ国に援助しました。この援助は、参加団体(学校等)がPTA預金から寄付して下さる資金と財団予算をあわせて実施しています。参加団体からのこの寄付を友愛援助と呼んでいます。

〈日本人学校〉

総額 483,055 円相当

オーストラリア、米国、ネパール、オランダの計4校に支援しました。

## [財団運営]

〈基幹システム改修〉

基幹システムの Windows10 への移行対応のため、大塚商会に発注していた作業が完了、2019年8月から本格稼働しました。

〈仕分け・集計簡素化のためのデジタル技術応用実験〉

画像認識技術導入へ向けての取り組みを継続しました。

〈2019年度に受けた大口寄付〉

ミズノスポーツ振興財団 1,000,000 円

1971年から49年連続で総額9050万円になりました。

ジブラルタ生命保険株式会社 1,000,000 円

へき地校向け出前教室の充実への寄付です。

〈財団役職員数〉

常勤28人(2020年5月1日現在)

## 2019 年度事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条に規定する事項が存在しない。

公益財団法人 ベルマーク教育助成財団